

今年度の特記事項

- ・施設整備以前の状況は、居住棟2棟、管理棟、保育棟の4棟に分散した建物で事業運営していた。その上、建物の配置上の課題や老朽化が深刻化していた。平成23年度東京都から民間移譲を受けて以来の課題が4か年かけて施設整備が完了した。特に利用者の安心・安全の確保と住環境の改善を図る目的で施設整備を進めてきた。1棟に集約した新しい建物の完成は、利用者をはじめ職員にとって大きな喜びとなった。
- ・工事期間中(増築部分・外構工事)ではあったが平成30年1月から新棟での生活がスタートした。新たな居室は対面キッチンや室内で洗濯乾燥ができるなど以前の住環境が大幅に改善され利用者から喜びの声が寄せられた。また、職員からは管理上の課題や安心・安全が守られた環境整備ができたことにより、不安軽減や業務の効率化につながった。
- ・事業運営面では、大小の緊急一時室が5室あり多子世帯用の居室等により7人世帯の受け入れなど実施することができた。一般入所率・緊急利用の増加にもつながっている。また、地域交流スペースを活用して地域との合同行事を開催することもできるようになった。
- ・その他、災害時を想定して防災倉庫の設置をはじめ、駐車場や駐輪場を広いスペースで確保でき利用者駐輪場でのトラブルが激減するなど施設整備のメリットは多方面にわたっている。

1 利用者サービスの向上

- ・業務システムの理解と適切な運用は、適切な記録作成を心がけた。
- ・新棟改正に伴う生活の手引きの見直し、改正は随時行った。
- ・各部署連携による自立支援計画の協議、作成は実践できた。
- ・利用者サービスにおけるヒヤリハットの作成および活用を強化した
- ・利用者情報や制度関連情報の収集および共有化(制度理解)は研修などを通じて理解に努めた。

2 地域支援の定着

- ・網代地区との合同行事(納涼祭、敬老会、どんど焼き、合同防災訓)を実施した
- ・貴志嶋神社の御開帳に参加した。
- ・地域支援事業の展開(テラコヤ事業)を実施した
- ・関係機関との更なる連携と協働体制の確立は、日々連携を心がけ対応した。

3 職員力の強化

- ・年間研修計画の実施と外部研修へ積極的に参加した
- ・ソーシャルワーカーとしての技術を身につけるよう努力した。
- ・法人内(施設体験)交換研修の実施
- ・事例検討会を継続し、計3回実施した。施設内勉強会の実施には至らなかった。
- ・基本職務要件の理解と定着は、研修及び部署内会議で理解を深めた。
- ・新システム導入に伴い記録の確認、申し送り・日々の記録入力 of 徹底を行った
- ・チームケアが適切に行えるように、朝礼などを活用し、職員個々のスキルアップを図った。

4 組織力の強化

- ・内部管理体制における業務の見直しを、年間を通じて実施した。
- ・業務の効率化のためのマニュアル等を見直しを行った。
- ・新システム導入に伴う業務改善、書式等の整備を実施した。
- ・内・外部研修会に参加し、スキルアップに努めた
- ・経営会議、各部署会議の充実が図れた。

5 財務の健全化

- ・広域入所となる福祉事務所等への声かけを積極的に実施し、年間利用充足率を92%以上確保できた。
- ・各福祉事務所などに新棟完成のPR活動を実施した。(一般入所世帯、緊急一時保護事業)
- ・毎月の経営会議(第4月曜)での動向確認と必要な備品購入の検討を行った
- ・積立金の中・長期計画の策定と3%以上の積立金の確保には至らなかった。
- ・緊急一時保護の柔軟な受入により、21世帯の受け入れを実施した。
- ・ショートステイ事業の開始についてあきる野市への事業内容の説明を行った。